

第4回図書館本館再整備基本計画検討委員会の事前公開資料に対する市民意見

意見1

市民参加型学習会①に参加した感想

- ・ 常世田委員長の実績からの知見はバランス感覚があり良かった。
- ・ 前田洋一委員の武蔵野プレイス館の事例は大変参考になった。委員会は表層的な視察に留まらず時間をかけ深耕し参考にすべきだ。
- ・ 委員会の議論は浅薄過ぎる、第一回なのでこの程度で致し方ないと思うが、今後は時間をかけた深い熟議を期待したい。
- ・ 市民参加型学習会と銘打ったのでこれまでと異なった会を期待したが従来型になりそうなので不安。
- ・ 市民参加と言うのは「参加した市民の意見・質問を休憩時間に提出し答える」これを行っているのか。これでは市民意見も聞いたという何時もながらのアリバイ作りで終わってしまう。

第1回学習会に参加しての提案

委員長の図書館はどうあるべきかの軸を明確に。

- ① 理念的なことは基本計画策定委員会で既に策定されているが、多摩市の実状を踏まえたうえで多様化した市民ニーズに応えられるものは何か。
- ② 駅前拋店館（永山、聖蹟桜ヶ丘）地域館（聖ヶ丘、豊ヶ丘、唐木田、東寺方）行政資料室、学校図書館それぞれの特殊性（ニーズ）を生かした調査・分析、連携ネットワークの構築。
- ③ ネットワーク化にはICT、IOTの活用で、特に中央図書館と地域館を結ぶライブビューイングの設置。
- ④ 多様化している市民ニーズに応えるには図書館、特に現状の司書のみでは無理があるため情報リテラシーコンシェルジュ的人材の配置への投資が、図書館ビル建設費より優先されるべき。
- ⑤ 多摩市の高齢化し人口減が著しい実態に対し、高齢者の移動に問題を抱えざるを得ない。現在予定地中央図書館建設では地理的に大変。特に公共乗り物としてバス・電車を利用しても多摩センター駅から400m～500mの移動は高齢者にとっては難行。車が自動運転の時代を迎えても駐車場問題に備えが要る。
- ⑥ パルテノン多摩とのシナジー効果を提案しているがそのために図書館建設を急ぐことはすべきではない。現状のパルテノン4階の広場が実現しても、図書館との人の動線を描くことは夢想だ。将来に禍根を残さないためにも。
- ⑦ 今、全国的にインフラの縮めかた、民間売却など叫ばれ、多摩市も賢く縮む方向を目指すとしているが、9館目のコミセンも完成した。これからは既設の公共施設を、どう活用し運営・維持管理をすべきかが優先されるべきだ。
最近は本を楽しめるようなスペースをつくる動きがいろいろの場所で広がっている。多摩市は2拋店館、4地域館、加えてコミセンの図書室の充実を補完すべき中央図書館の在り方を考えるべきだ。

意見 2

資料 3 全館資料の再編と新本館の資料構成

【参考資料】同一人口規模自治体図書館との地域中心館の規模等比較 ～『日本の図書館 統計と名簿 2016』より～

日本の図書館 すでに 2017 年版が出ているので最新版の数字にすべき。

【参考資料】多摩市と浦安市の比較

地域館における本の新鮮度（よく利用される 3 分野について）

こちらでは日本の図書館 2017 年版が使われている。

できるだけ最新版の数字を使って議論してほしい。

意見 3

資料 3 全館資料の再編と新本館の資料構成

【参考資料】多摩市と浦安市の比較

雑誌（集中／分散の状況など）

多摩市と浦安市を同じレベルで比べているのか。

多摩市は寄贈雑誌除く、浦安市は寄贈雑誌含むになっていないか。

統計資料は自分の都合の良い様に加工できるので注意が必要。

意見 4

1. 片仮名語を多用しないこと

- ・ 片仮名表記が多く解釈不能のところが多い。
- ・ 仮名表記は極力なくすこと。
- ・ 外来語の片仮名表記をする場合は、誤解の無いよう、意味の解説・注釈をつけること。

2. 資料のまとめ方について

- ・ 資料のまとめ方に於いて、参考にした原著が分かるよう、注釈を付けること。
- ・ なるべく詳細に資料を添付すること。

3. 地域資料について

- ・ 地域資料の保存・廃棄規定について、明確にすること。
- ・ 紙媒体の廃棄については、すべての廃棄物を電子化し永久保存とすること。（地域資料は、この地域にしかなく、廃棄したらこの世から消えるため）